

61054	音楽科教育法 I	2単位 後期	2	講義	大山 伸子 (非)
-------	----------	-----------	---	----	-----------

■テーマ 基礎技能の体得および楽曲の課題修得と教材研究への取り組み

■授業概要 基礎技能の習得として「音楽とリズム」(ダルクローズメソッド)の学習、及び楽曲の教材研究を通して題材の展開例や指導の方法論を学ぶ。

■到達目標

- ・ダルクローズメソッド(リトミック)を基軸に音楽とリズムを中心とした身体の技能を体得する。【授業計画・方法 ①～⑥】
- ・教材研究として歌唱とピアノ伴奏法を修得し、題材の展開を工夫する。【授業計画・方法 (ア)～(ケ)】
- ・作曲家人物研究や音楽教育史・音楽教育メソッドについて学び、レポート課題を提出する。
- ・学習指導要領の変遷について学び、加えて学習指導案作成と模擬授業を発表する。

■授業計画・方法

第1回:	オリエンテーション	ガイダンス・授業全体についての説明
第2回:	DVDの活用	ダルクローズメソッド(リトミック)の概要
第3回:	基礎技能の習得① 教材研究(ア)	基礎リズム(四分、二分、八分、付点十六分音符)の体得 「歌えバンバン」歌唱&ピアノ伴奏法と展開の工夫
第4回:	基礎技能の習得② 教材研究(イ)	リズムパターン&リズムフレーズ 「うみ」歌唱&ピアノ伴奏法と展開の工夫
第5回:	基礎技能の習得③ 教材研究(ウ) CDの活用	楽曲による身体即興表現 イメージ表現〈1〉グループ発表 楽曲:熊蜂の飛行(リムスキーコルサコフ)を題材にして 情報機器及び教材の効果的な活用法
第6回:	基礎技能の習得④ 教材研究(エ)	楽曲による身体即興表現 イメージ表現〈2〉グループ発表 楽曲:学生の専攻楽器によるグループの創作を題材にして
第7回:	基礎技能の習得⑤ 教材研究(オ)	高校教科書MUSA:ソルフェージュ(リズム)、ポリリズム&カノン 「ふるさと」二部唱&ピアノ伴奏法と展開の工夫
第8回:	作曲家人物研究 DVDの鑑賞	沖縄の音楽教育家・作曲家「宮良長包」作者研究 (情報機器及び教材の効果的な活用法)
第9回:	作曲家人物研究 教材研究(カ)	「宮良長包」の作品 「安里屋ユンタ」ピアノまたは三線伴奏法と展開の工夫
第10回:	基礎技能の習得⑥ 教材研究(キ)	ボディパーカッション 「大きな古時計」歌唱&ピアノ伴奏法(楽器は任意)と展開の工夫
第11回:	アンサンブル 教材研究(ク)	六手ピアノ連弾奏法 「ジブリ音楽」他、約10曲から選曲し演奏
第12回:	作曲家人物研究 DVDの鑑賞	滝廉太郎作者研究 「わが愛の譜」滝の生涯と作品を辿る (情報機器及び教材の効果的な活用法)
第13回:	作曲家人物研究 教材研究(ケ)	滝廉太郎の作品 「荒城の月」歌唱&ピアノ伴奏法と展開の工夫
第14回:	学習指導要領の変遷及び学習指導案作成	
第15回:	模擬授業・まとめ	

①～⑥はダルクローズメソッドによる音楽とリズムを中心とした基礎技能の体得
(ア)～(ケ)は楽曲課題の教材研究

■履修上の留意点

- ・予習型授業が中心で、実技課題を準備学習して授業に臨む。
- ・授業計画・方法の教材研究(ア)～(ケ)は、各回授業の前回授業に課題を受け、次回授業に発表し評価を受ける。
- ・楽曲の題材を生かした展開例を工夫する。

◇準備するもの:①～⑥の音楽リズム学習は身体表現を行うので軽装で動きやすいシューズで臨むこと。

■成績評価の方法・基準

□方法 ①出席及び受講態度(平常点 60 点/37.5%) ②実技課題(70 点/43.75%) ③レポート課題(30 点/18.75%)

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献

□教科書

特になし

□テキスト

授業に必要な資料(プリント)を配布する。

□参考文献

「中学校音楽教科書」教育芸術社、「高等学校音楽教科書 MUSA」教育芸術社、「中学校・高等学校教員養成課程音楽科教育法」教育芸術社、「中学校学習指導要領」教育芸術社、「高等学校学習指導要領」教育図書。

その他、参考資料等は都度、提示する。